

共に生きる 豊かな福祉社会 のために 朝日の社会福祉

THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

本部(東京)

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL 03(5540)7446 FAX 03(5565)1643

大阪事務所

〒530-8211 大阪市北区中之島2-3-18
TEL 06(6201)8008 FAX 06(6231)3004

西部事務所

〒803-8586 北九州市小倉北区室町1-1-1
TEL 093(563)1284 FAX 093(563)1287

名古屋事務所

〒460-8488 名古屋市中区栄1-3-3
TEL 052(221)0307 FAX 052(221)5453



朝日新聞厚生文化事業団ホームページ

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>
E-mail mail@asahi-welfare.or.jp

朝日新聞厚生文化事業団は
「子ども」「障害のある人」「高齢者」を柱として
社会福祉事業に取り組んでいます。



社会福祉法人

朝日新聞厚生文化事業団

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>



子どもの福祉

こども応援金

東日本大震災で両親を亡くした子どもに、使い道を問わない応援金(150万円～300万円)を直接、渡しています。これまでに202人に総額4億8850万円を贈りました。

高校生進学応援金

児童養護施設や里親家庭から大学や専門学校への進学を目指す高校生に応援金を贈呈しています。15年度は総額1824万円を32人に贈る予定です。

こどもっと

社会的養護の当事者活動の全国ネットワーク「こどもっと」を結成し、協動で、児童養護施設や里親のもとで暮らしたことのある人たちの研修会や情報交換などを行っています。



朝日夏季保育大学(長野)

保育士などの教養と技術の向上を目指して、1954年から長野県諏訪市で催している研修会です。15年は「気になる子どもへのかかわり」や「保育現場での記録の書き方」をテーマにした講演や、子どもが大好きなマジックや音楽、絵本を使ったスペシャルステージなどを開催しました。



親子で楽しむ クリスマスコンサート(東京)

あそびうたや踊りで、子どもも大人も楽しめる愉快なステージをお届けします。15年は「世界中の子どもたちが」の作曲で知られる中川ひろたかさんとデュオグループのケロポンズが出演します。



障害のある人の福祉

全国高校生の手話による スピーチコンテスト(東京)

「人生がもっと楽しくなるのは、他人のために生きている時」と手話と音声で訴えた、愛知県の桜花学園高3年の佐藤梨江さんが1位に選ばされました。



自閉症カンファレンス NIPPON(東京)

日本全国から1000人を超える参加者が集まる国内最大級の自閉症支援のための会議を、東京・早稲田大学で開きました。



聖明・朝日盲大学生奨学金

視覚障害のある大学生に奨学金を貸与しています。聖明福祉協会と当事業団の主催で、15年度は月3万円貸与される奨学生に4人が選ばされました。1969年に設けられて以来、貸与者の総数は206人になりました。



九州車いすツイン バスケットボール選手権大会

障害に応じて2種類のゴールを使う車いすツインバスケットボールの九州大会を共催しています。



高次脳機能障害講演会 (東京、大阪)

交通事故や脳卒中などで脳を損傷した人たちの生活や就労、住まいを考える講演会を東京と大阪で開きました。医師や支援者の他、高次脳機能障害の当事者も登壇し、自分たちの仕事や施設のあり方などについて語り合いました。



うつ病の講演会(東京、名古屋)

漫画「ツレがうつになります。」などの著者細川貂々さんと夫の望月昭さん、精神科医の大野裕さんを講師に招き、うつ病になってしまってその人らしく生きられるよう、本人や周囲の人にできることを考える講演会を開催しました。



高齢者の福祉

認知症カフェ

認知症の人やその家族などが気軽に集まって語りあえる「認知症カフェ」を静岡県南伊豆町に開設しました。認知症カフェの開設講座も福岡、松山などで開催しています。



講演会 「看取り・幸せな人生の最終章とは」(大阪、東京)

幸せな人生の最終章とは何かを考える講演会です。滋賀県で訪問診療を通じて高齢者と向き合う医師の花戸貴司さんと、写真家として「看取り」の現場を取材している國森康弘さんに講師をお願いしました。



講演会 「人生の最終章を自分らしく生き抜く」(東京、大阪)

「ぼくがいま、死について思うこと」(新潮社)を出版した椎名誠さんが、自身の最期を含めて、生きることと死ぬことについて語ります。



講演会

「自分らしい人生の最終章とは?」(名古屋、福岡)

医師で作家の久坂部羊(くさかべ・よう)さんが、医師でありながら近代医療ぎらいだった父親の看取りを通して、死を迎えることへの心構えを名古屋市と福岡市で語りました。



講演会 「認知症はこわくない」(大阪)

高齢期の豊かなくらし研究会と事業団の主催で、「認知症をタブーにしない」を合言葉に、島根県出雲市で支援・啓発活動に取り組んでいるエスポアール出雲クリニックの高橋幸男院長の講演会を大阪で開催しました。



ゆうゆうビジット

音楽家や力士たちが全国の老人ホームや介護老人保健施設などを訪問し、外出の機会が少ない高齢者の方々に楽しいひとときをお届けする事業です。





震災・災害救援事業

朝日新聞厚生文化事業団は、関東大震災の被災者救援をきっかけとして設立された団体です。災害復興支援は、いまも事業の大きな柱となっています。

ネパール地震

4月25日に発生したネパール地震で大きな被害を受けた被災者のため、朝日新聞社とともに救援金を募りました。朝日新聞社からの100万円を含めた1426件、総額2998万7740円を日本赤十字本社に送りました。



関東・東北豪雨被害

北関東や東北の記録的豪雨によって甚大な被害を受けた被災者のために救援金を募りました。1401件、総額2705万108円が集まり、全額を日本赤十字本社に渡しました。



朝日のあたる家

東日本大震災の被災地、岩手県陸前高田市にコミュニティーハウス「朝日のあたる家」を2013年に建てました。各種講演会やコンサート、認知症カフェなどが開かれる地域の活動拠点となっています。



グリーフケア

震災で大切な人などをなくした子どもたちのグリーフ(悲嘆)に寄り添う支援がグリーフケアです。米国ハワイ州のキッズ・ハート・トゥ・ハワイのシンシア・ホワイトさんを招き、宮城県東松島市などで開きました。実践者やトレーナーの養成講座も開催しています。



被災地ビジット

東日本大震災の被災地の方々に、コンサートや歌やマジックなど、安らぎのひと時を届ける事業です。訪れた学校や老人ホーム、保育所が笑いと歓声に包まれます。



多彩なチャリティー事業

朝日チャリティー美術展 (名古屋、大阪、東京)

文化勲章受章者や人間国宝を含む全 国の芸術家や著名人から寄贈された 作品を販売し、収益を社会福祉事 業に充てるチャリティー美術展を 名古屋、大阪、東京で開催します。若手作家の創作活動を 支援し、社会との「懸け橋」となる「Next Art展」も東京の松屋銀座で開きます。



メサイア演奏会(東京)

ヘンデルの「メサイア」を山下一史さん指揮のもと、芸大フィルハーモニアが演奏、同大音楽学部声楽科学生と大学院生らが独唱・合唱します。戦後間もない1951年に、家族を戦災で失った子どもたちや生活困窮者の支援を目的に始まったコンサートも65回目を迎えます。



洋舞合同祭(大阪)

モダンダンスとクラシックバレエの 祭典「洋舞合同祭」を大阪で開催し ます。児童や大人のチームなど総勢約 600人の出演者が日頃の成果を披 露し、華やかなステージで繰り広げます。



協賛能(大阪)

観世流や宝生流など能の五流や狂 言の大蔵流、和泉流など関西で活躍す る能楽師や狂言師が一堂に集まる「歳 末助け合い協賛能」を、能楽協会大阪 支部との主催で12月に開催します。



各派合同三曲 演奏会(大阪)

琴、三絃、尺八の各派 社中による優美で華や かな和の音色に染まる 合同演奏会を大阪市で 開催します。



茶会(大阪、名古屋、北九州)

各流派のお茶席が気軽に体験でき るチャリティー茶会や、関西の大学 の茶道部による学生チャリティー茶会 などの茶会を開きます。





福祉啓発や公衆衛生

遺贈・遺言セミナー (東京、大阪、名古屋、福岡)

高齢者の財産を守る成年後見制度や遺贈について学ぶセミナーを開催しました。



自殺防止公開講座(福岡)

大分市の南陽山勝光寺の住職・南慧昭(みなみ・えしょう)さんを講師に招き、公開講座「自殺!?ちょっと待って！」を開きました。生きにくいと感じる現代社会で、自分や人のいのちを大事にして生きていくヒントを探りました。



アサヒベビー相談室 (大阪、高槻、大津)

育児に悩む親のため、デパート内に無料の育児相談室を設け、医師や歯科医師、栄養士といった専門家が病気や発育、栄養などの相談を行っています。1957年に全国で初めてデパート内に無料相談室を開設し、年間約1500人が訪れています。



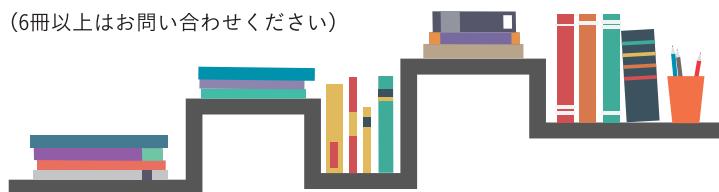
朝日福祉ガイドブック・DVDのご案内

◆朝日福祉ガイドブック

『なるほど 高次脳機能障害』 (1,296円)	「見えない障害」とと言われる高次脳機能障害の診断、退院、リハビリ、社会参加などを網羅し、多数の事例を交えて解説
『認知症とともに』 (1,080円)	認知症の人や、その家族のために、診断から治療・ケア・介護サービス、施設への入所や看取りまでをイラスト入りで分かりやすく解説
『みんなのうつ』 (1,080円)	うつ病の「分かりにくさ」を整理した入門書。大野裕さん監修。自分や家族、周りの人が「うつ病かな」と思った時に開いてください
『生き方、逝き方 ガイドブック』 (1,296円)	どうすれば本人らしい「逝き方」ができるのか。タブー視されがちなこの命題を新田國夫医師とともに整理しました
『自閉症のひとたちへの 援助システム』 (540円)	TEACHプログラムの実践例を紹介し、日本でいかに生かすかを提案
『自閉症の人たちを 支援するということ』 (864円)	TEACHプログラムの最高責任者、米ノースカロライナ大のメジボフ教授が自閉症とプログラムの内容を分かりやすく解説。
『100%あらたくん』 (648円)	自閉症のあらたくんが大活躍の4コママンガ。自閉症の理解に役立ちます

【梱包送料】

1冊180円、2~3冊250円、4~5冊300円
(6冊以上はお問い合わせください)



朝日福祉ガイドブック・DVDのご案内

◆朝日福祉ガイドDVD



『自閉症の人が求める支援』

全3巻セット価格10,692円 各巻4,320円

自閉症の人が自閉症のまま、学び、発達し、健康に幸福に生きていくための、それぞれの個性に合わせた支援のあり方を映像化。第1巻「基本編基礎からわかる構造化」(60分)・第2巻「実技編構造化と再構造化のしかた」(85分)・第3巻「実践編自立のための構造化」(112分)。

『自閉症の子どもの評価 生活スキル編』

全4巻セット価格18,144円 各巻4,860円

自閉症の人を正しく支援する上で、すべての基礎となる評価を詳しく、具体的に、わかりやすく映像化しました。第1巻「評価の仕方」(65分)・第2巻「評価のポイント」(48分)・第3巻「評価と課題設定」(86分)・第4巻「自立のための評価」(71分)。

『自閉症の人が見ている世界～自閉症の人を正しく理解する』

全3巻セット価格10,692円 各巻4,320円

自閉症の人の考え方や感じ方の「違い」について、自閉症の人自身が語る言葉と映像は、自閉症を正しく理解する原点。第1巻「自閉症の人の学習スタイル」(63分)、第2巻「自閉症の人が好むこと」(39分+全3巻のダイジェスト21分)、第3巻「13人のエピソード」(85分)。

自閉症児の治療教育シリーズ(米国ノースカロライナ州のTEACCHプログラム) 各巻3,024円

『自閉症児の明日のために TEACCHのねらいと考え方』(49分)、『親のためのTEACCHプログラム』(67分)、『教師のためのTEACCHプログラム』(69分)、『青年期・成人期のTEACCHプログラム』(55分)。

『自閉症の子どもの自立課題』

全3巻セット価格13,608円 各巻4,860円

「自分はできるんだ」という感覚を養い、いろいろなことに取り組もうという意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しくやさしく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64分)・第2巻「自立課題の作り方」(59分)・第3巻「自立課題のできあがり」(49分)。

【梱包送料】7巻まで510円(8巻以上は800円)

ご希望の方は電話かファクス、電子メールで下記までお申し込みください(タイトル名、数量、送り先、電話番号を明記)。

朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD係

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 tel:03-5540-7446 fax:03-5565-1643

e-mail:guide@asahi-welfare.or.jp

ホームページ(<http://www.asahi-welfare.or.jp/>)からもお申し込みができます。

皆様からのご寄付は 次のような事業に使われます。

(2015年度社会福祉事業予算、東日本大震災救援事業を含みます)



この他 公益事業としてガイドブックやDVDの発行
福祉啓発事業なども行っています。

事業総額 1億3129万円

朝日新聞厚生文化事業団の社会福祉事業は皆様からのご寄付で実施されています。寄付者名・団体名は朝日新聞の地域面に掲載します(千円以上。匿名扱いもできます)。

ご寄付やお問い合わせ

- 郵便振替 「寄付専用」郵便振替用紙をお使い下さい。お手元にない場合は、当事業団が払込料金を負担する振替用紙をご請求ください。または、口座番号「00130・1・9166」(加入者名=朝日新聞厚生文化事業団、通信欄に「寄付」、領収書不要の場合もそのように明記)までご送金下さい。
- 銀行振り込みやクレジットカードによるご寄付もできるようになりました。事業団ホームページからご寄付の手続きができます。
- 現金受付 朝日新聞本社内の厚生文化事業団窓口(平日午前10時～午後5時30分)や朝日新聞の各総局など
- ※寄付金控除 当事業団へのご寄付は個人の場合、所得控除と税額控除の二つの寄付金控除のいずれか有利な方をお選びいただけます。この優遇を受ける場合、確定申告をしていただく必要があります。相続税が非課税となる遺贈・遺言のご相談も含め事業団へお問い合わせください。
- 事業団ホームページから事業報告書をダウンロードできます。より詳しい事業内容をお知りになりたい方は、そちらをご覧下さい。